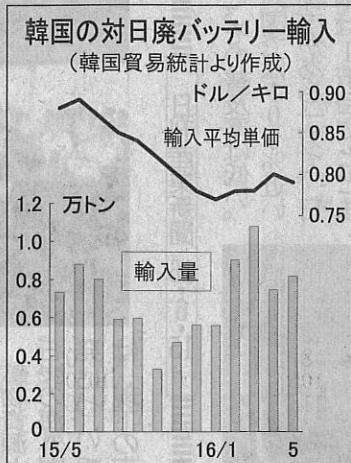


# 廃バッテリー 対日輸入再び 8000ト超

## 韓国5月、前月比9.6%増

韓国関税庁が15日発表した貿易統計によると、5月の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の日本からの輸入量は前月比9.6%増の8165ト

で、前月の一服から再び増加に転じた。輸入平均単価はキロ1ポアンダで79ポで4カ月ぶりに小反落した。



鉛リサイクル原料の廃バッテリー輸入国である韓国は、昨夏から放射能検査厳格化の影響もあって対日輸入を

減らしていたが、今年は一転して急増。3月には1万773トの最多水準に達した。その後反動で減ったが、5月は8000ト超えで当面高水準が続くという心配だ。

韓国の輸入総量は前月比0.3%減の3万4436トで横ばい。日本に次ぐ主な輸入相手国は、米国7537ト、アラブ首長国連邦(UAE)6559ト、トゴ2120ト、ドミニカ共和国1928ト、ニュージーランド1478ト、シンガポール1379ト。上位7カ国は変わらず、輸

入先と調達ルートは固定化されつつある。対日輸入の平均単価は再び70ポ台。ロンドン金属取引所(LME)鉛相場が軟化や、対ドル相場の高進歩が単価を押し下げたとみられる。日本国内の市中取引相場もキロ70円台半ばで上昇が一服。ただし、

対米の輸入単価82ポ、対UAE83ポとの値差は若干広がる傾向にあり、対日単価の割安感から買い圧力が強まる可能性もある。